

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0000136515		
法人名	株式会社 ケアマインド		
事業所名	グループホームこころ川西		
所在地	兵庫県川西市大和西5丁目24-2		
自己評価作成日	平成25年2月11日	評価結果市町村受理日	2013年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2013年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、郊外の団地の中にあり、自然豊かな環境に恵まれています。季節を感じる散歩コースをお顔馴染みの近所の方々と挨拶を交わしながら楽しんでます。自治会との交流も盛んで季節ごとの行事(運動会、文化祭、ドンと焼き、防災訓練等)にご招待いただき参加しております。今年は、新たに自治会開催の世代交流喫茶が開かれることを機に毎週通わせていただくようになりました。私たちは、食後のコーヒーを楽しみに伺うのですが、他のお客様との会話も何よりの楽しみです。このように、地域での暮らしをより豊かにするために、地域と一緒に活動の幅を広げる取り組みを行っています。また、一人一人の個性と自由を尊重し、のびのびと暮らして頂ける環境創りを心がけ、ご利用者と職員がアットホームな関係で共に支え合いながら『役割』『楽しみ』『安らぎ』のある生活を目指しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近く、便利で閑静な住宅地にある。開設以来、事業所の働きかけで、地域との連携が取れ、さまざまな場でそれが活かしている。例えば、運営推進会議には、コミュニティ委員、福祉委員、民生委員、老人会、自治会、キャラバンメイト代表が出席、情報提供や協力者としての連携が取れ、防災訓練等にも協力的である。利用者は、地域に出かける場が多くあり、事業所は トライやるウイーク、キャラバンメイトのフォローアップ、ボランティアの受入れにも開放されている。声掛けや対応方法等利用者の思いに寄り添う関わりを大事にし、利用者本位のケアを日々実践している。地域に見守りや協力を依頼し、又、さらなる職員の意識・質の向上を図り、施設だけでなくも過ごせるホームにできないかの検討を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が中心となり「こんな施設にしたい」という思いを運営理念に「7つの支援方針」として表現した。その結果として、地域密着型サービスの意義が盛り込んだ内容となった。思いを込めて実践につないでいる。	利用者の個性を尊重し、明るく楽しくその人らしい人生が送れるようところを込めて寄り添う7項目を理念とし、毎日項目順に唱和し共有している。利用者間のトラブルや認知症状への対応もその人らしさを尊重して支援できるよう理念に沿った実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会の廃品回収に協力や自治会の賛助会員に加入し地域行事(運動会、文化祭、どんと焼き等)には積極的に参加している。また、施設の夏祭りは近隣の方を招待し一緒に楽しんでいる。	事業所は地域との交流を重視し、自治会や老人会とも良好な関係性が構築できている。お祭りが好きな利用者は、地域の催しにも喜んで参加している。また、日常的にも、散歩時や買い物に行った時に近所の人と挨拶する等顔なじみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のキャラバンメイトのメンバー18名が9日間に渡り施設実習を体験された。認知症の方とのコミュニケーションや接し方等を学んでいただき地域活動に活かせる取り組みができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催。運営推進会議のメンバーと入居者が一緒にお茶を飲み交流を図る機会も作り、入居者の理解を得た上でサービス向上に活かす話し合いを行っている。	地域の様々な担い手が出席し、定期的開催。行政、地域から情報がもらえ、事業所からは、家族会の報告や第三者評価についても伝えている。3月には地域の協力のもと自主防災訓練を予定している。利用者との会議参加者のお茶会は好評であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会を年1回開催している。行政にも参加願い、情報の提供や適切な運営について助言、指導を受け業務の運営に生かしている。	年3回のグループホーム連絡会で、それぞれの事業所の課題について、行政とともに話し合っている。運営推進会議にも市の長寿・介護保険課、社会福祉協議会からも出席があり、事業所理解が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のために全ての出入りに施錠はしている。しかし、「禁止の具体的な行為」について職員は理解しており、身体拘束は行わない方針で可能な限りの取り組みをしている。	職員は、研修で身体拘束について学んでいる。ことばの拘束について、「やめてください」と言わなくてもいい状況を作るよう、管理者は職員を指導している。センサーマットが必要な場合も、文書で家族の同意を得ている。玄関の施錠は、安全性を考え継続している。外へ出たい素振りがあれば、一緒に外へ出るよう心がけている。	地域との付き合いが良好であるので、近所の協力も得て施錠しない方法の再検討を望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底	管理者や職員及び家族様も参加して「高齢	虐待も含め利用者の権利擁護について、全職員に周	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	者の人権」について学び、広い範囲で虐待に当てはまる行為や言動があることを知り、防止についてお互いに注意を払うよう取り組む。	知するため、外部講師を招いて人権について学ぶ機会を持った。また、職員が一人で抱え込まないよう、不適切なケアの気づきを得るため、利用者の対応について会議で話し合っている。有休取得、シフトの調整にも配慮し、働きやすい職場環境を整えている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の人権について、虐待も含め地域包括の職員を講師に招き、家族会と職員を対象に勉強会を開催し、同じ目線で人権や権利擁護について考えることができるように努めている。	利用者の中で権利擁護の制度活用者はいないが、家族会で、制度の紹介をしている。職員にも伝達研修を行い、制度理解を図っている。利用契約時には説明は行っていない。	事業所では権利擁護の視点での利用者支援に努めているので、利用開始時に、パンフレットを渡す等の情報提供もご検討いただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書をもとに説明を行う。又別紙、入居案内文も用い不安や疑問に答え納得していただいている。	契約時は十分時間をかけ、入居時に必要な準備や発病、入院時の対応等、家族の不安に思っていることも説明している。見学や契約書を持ち帰り検討する等、納得して利用できる配慮もなされている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見を述べることができると共に、運営推進会議においても利用者、家族代表が参加しており外部へ意見を出し解決する仕組みがある。	家族会や運営推進会議で、利用者、家族が意見を述べる機会が設けられている。防災に関して、職員の緊急時連絡網の話から、家族も何かあったら、すぐ駆けつけたいので、連絡網を作ってほしいとの意見が出され、緊急時の家族連絡網が作成された。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロアー会議で提案された内容をリーダー会議に於いて代表者も参加し提案された内容を協議する仕組みがある。また、職員アンケートを実施し意見や提案について改善に向けた話し合いをしている。	職員の質の向上のため、職員アンケートや自己評価を行った後、面接を行い、意見交換している。希望にそって、研修参加や資格取得も応援している。職員の中に他施設の見学希望があり、管理者は、職場訪問研修を提案していきたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な研修および、目標に対する評価を行い、向上心を持って働けるような環境作りにも努めている。モチベーションの向上や維持ができるよう、各職員に対し適正に評価できるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、業務に必要な研修や役立つと思われた研修への参加を推奨している。また、感染症、事故予防、防災等はマニュアル担当を決め、率先して研修を受講。他職員へは受講担当者より伝達を受けやすいようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じ、相互に情報交換や勉強会を開催し、質の向上への取り組みを行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様より本人の情報を聞き取りスタッフと共有する。入居後しばらくは不安でいっぱいの利用者の訴えに傾聴し、何に不安を感じているのかを職員と家族様で対応方法を話し合い考える。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の自宅介護の困難さや不安について話を聞くと共に、入居した場合のメリットやデメリットも説明した上でお互いに本人にとっての最善の方法を話し合うことで良い関係が作れるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向と緊急性等加味した上で入居を決定している。他サービスが適切であれば担当ケアマネジャーと相談し本人の意向と可能性を最大限考慮し対応に努める。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意欲や能力に応じて、できることはしていただく。お互いに助け合う関係であると共に困った時はお互い様の関係を大切に考え、入居者間でも支えあう関係ができています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などや普段からも家族様と交流しており、良いことも悪いこともお伝えする中で、お互いに協力し合っこそ、解決できることがあると認識できている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所から入居されて来た方は今まで通っていた「サロン」へ継続して利用されており、今までの関係を大切に支援を行っている。また、面会も気兼ねなく来ていただけるよう対応している。	本人、家族から馴染みの関係の情報を得ている。事業所では、新しく馴染みの関係を築くことも大切と考え、近所の美容院や喫茶、商店を馴染みの場となるよう支援している。また以前の習慣が継続できるよう、牛乳を近所へ職員と一緒に買いに行く人等の支援もしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の態度や言葉から、また、グループでの会話から利用者同士の関係を把握している。孤立させないように、席の工夫をしたり、和める会話に話を切り替える工夫を行っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から相談等あれば親身に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々に居室担当を決めて、担当職員が日々の関わりから意向を聞きだし、フロアリーダーやケアマネジャーと相談しケア目標(本人の希望)につないでいる。	居室担当職員が中心に、思いや意向の把握を行っている。入浴時等にふと出ることばも聞き逃さず大事にしている。把握困難な場合は、職員の観察や感じたこと、日ごろの家族との関係から推測し利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の面会も頻会にあり、また、毎月のモニタリングでも本人の意向や家族様の意見を伺う等全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、フロア会議等で全体で情報を共有する等、日頃の健康状態や過ごし方等現状の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを居室担当が行い、現状を介護計画作成者に報告し新たな課題をケアの実践結びつけている。家族様にもその内容を報告し家族様の意見も反映できるよう工夫している。	居室担当を中心に、変化や新たな希望に対応し、医師、訪看、福祉用具担当の意見を参考にしている。医療保険の訪問マッサージ、地域のサロン、気兼ねなく行ける軽食などの社会資源も計画に反映させている。家族との関係を大切に、本人本位の計画を作成している。見直しは原則半年。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応やケアの実践結果についての意見や気づきをケア検討簿に記録し共有することで見直しや新たな課題発見を計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりの心身機能に応じ、スーパーへの買い物や自治会運営の喫茶店に通う等個々に満足感が得られるよう対応している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居されても通い慣れた”サロン”の継続。気軽に通える美容院の開拓。今年からは、自治会運営の喫茶「きらり」に毎週通えるようになった。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医、及びかかりつけ医と必要に応じ、又は定期的に受診ができるよう支援を行っている。	入居時に本人、家族の承諾を得て、往診医をかかりつけ医としている。その他の整形外科・歯科・耳鼻科・眼科については他の医療機関を受診している。突発的な受診は職員が対応するが、定期的なものは家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護の往診を受け、健康上の変化等相談を密に行い連携を取っている。また、心身の状態悪化時は電話で指示やすぐにかけてくれるので安心である。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の病院紹介や連携で安心して、検査や治療が受けられる。入退院についても情報交換や相談もスムーズで良好な関係が築けている。	往診医と近くの公立病院との連携が密であり、入退院時の情報も共有しやすい関係にある。入院した場合でも座位が取れば早期退院を促し、マッサージや生活リハビリを通じ、以前の生活に戻れるよう支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて取り組みを始め、家族会等で事業所のできる範囲や取り組み状況を説明し家族と共に取り組みを行っている。	入居時には、一般浴が難しくなれば退所の考慮も必要と説明し了解を得ている。しかし実際は家族の希望もあり、往診医の協力を得て看取りも実施している。家族からは終末期医療についての希望を聞き取り同意書を得ている。職員へはマニュアルや研修などで不安の軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員へは救急救命方の研修を推奨しており、現在全職員が受講できている。今後も推奨し全員が急変や事故発生時に適切に処置や行動ができるように実践力を養う。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の協力を得て年2回の防災訓練を実施している。また、地域の防災訓練へも参加し、地域との協力体制を築いている。	消防署との合同訓練と自主訓練の年二回実施している。地域の自治会に賛助会員として加入、日常的な交流があり、訓練にも毎回地域住民の協力を得ている。先般のグループホーム火災事故を教訓に、火の不始末等について再度見直し、気を引き締めている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個浴で対応や居室も個室にてプライバシーを保護している。プライドやプライバシーに配慮した対応や言葉かけができるよう「権利擁護」及び「虐待」についても研修を実施している。	入浴時や排泄介助時の個々のプライバシー確保については、他施設の例も伝え、職員間で話し合っている。例えば、排泄の誘導の際、目立たない方法でパッドを持つ工夫についても検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の出来る方は自己決定を尊重しているが自分の思いをうまく伝え難い利用者へは言葉を選んだり選択肢を提示したりして希望を確認する等工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね一日の生活の流れはあるが、その日の個々の状況やペースに合わせて柔軟に対応したり工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、好みの洋服をご自身で選ばれる。男性は髭剃りのお手伝いをさせていただく等、1日の始まりがさわやかにスタートできるよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は調理会社に任せているが個々の力に応じ、食事の盛り付け、配膳下膳等できる範囲を職員と共に行っている。また、毎月2回、クッキングの日を設け夕食やおやつ作りを楽しんでいる。好評につき、今年度は4回に増やす	調理は委託しているが献立は給食会議で決めている。嚥下しやすい形態に配慮しているが、安全面と楽しみとのバランスに悩んでいる。月4回に増やしたクッキングでは、ちらし寿司やカレー、おでん等、利用者の希望を取り入れ楽しめるよう工夫している。	昨年の喉詰り事故を真摯に受け止め、全員が救命方法の研修を受講。職員の席も工夫し、利用者が職員の死角にならないよう気を配っている。今後も安全面に留意し、食事を楽しめる支援を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事や水分量を把握し、食欲低下や水分不足の時には、状態に応じゼリーにしたり食べ易い形状に工夫している。歯科医や医師とも連携を図り原因の改善にも努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施。また、月2回、歯科医と歯科衛生士の口腔ケアと職員も指導を受け連携して個々の口腔ケアを実践している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のオムツ使用形態と排泄パターンを共有。習慣や力を把握し失敗を減らしたり、感染症の予防に努めている。自立や改善の工夫も個々に指導や対策を行う。	自立者は2名。排泄表を注意してチェックし個々の習慣を捉えるようにし、介助への羞恥心や不安の軽減に配慮しながら自立支援を行っている。パッド使用からリハビリパンツ着用に向け支援して行く事を課題としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により不穏等やその後に及ぼす影響を個々に把握し、トイレ誘導のタイミング、服薬コントロール等共有している。また、腹部マッサージや水分補給など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね曜日は決めてあるが、体調や希望に応じて変更は自由である。入浴拒否傾向の場合は、タイミングをみて働きかけたり、二人で対応する等配慮し不安感の解消に努め気分良く入浴を楽しめるよう支援している。	基本的には週3日利用可能だが、利用者の体調や希望に合わせて予備日も用意している。個浴であり、利用者もリラックスして日頃は聞けないような心の奥の気持ちを話す事もある。入浴後は手足の保湿マッサージをし、入浴日以外は足浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握し、午睡の取り方や入眠の時間帯も個別に対応している。その時々状態に応じた眠りも工夫し支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書にて薬の用法等理解している。また、疾病との関係性にも注意し、症状の変化等あれば主治医に連絡をする等確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味・好みを把握すると共に、現在の体調や興味も加味した上でレクレーションの参加を促したり、ドライブ等の気分転換を図っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々やグループ、全体等季節や条件等での対応は様々である。近隣への散歩を初めスーパーでの買い物、ドライブ等外出の楽しみを支援している。	天気の良い日はいつも近隣の住宅内を散歩する。自治会から誘いを受けた世代交流喫茶へは、コーヒーやお菓子と共に小さな子ども達との触れ合いを楽しみに毎週通っている。スーパーへは車で出かけ、ペットショップに立ち寄ることが楽しみになっている。月に一回は郊外の車いす対応可能な喫茶へ遠出もしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金や貴重品の持ち込みはお断りしています。お買い物や希望に応じての使用については立替をしており、使用については可能な限り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは自由で、一緒にポストまで出かけます。電話は必要に応じ携帯電話の持込や施設携帯を使用してもらう。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り家庭的な環境や季節感を感じていただき、居心地の良いようにように工夫している。	全体的に明るく、清潔な感じに整えられ、干支の蛇やお雛様も飾り、節目や季節感が感じられるよう整えている。居間にはソファが二つ置かれ利用者が寛ぐ場所となっている。壁面には利用者の絵や書の作品が展示されていて、全員の作品を掲示するよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニング共、テーブルやイスは組み合わせが自由にできる家具を使用し、その時々状況や雰囲気や組み合わせを変える等工夫をすることで気兼ねなく過ごせる居場所を作っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に使いなれた家具や道具を持ち込まれたり、好みの家具で居心地良く工夫されている。	各居室に大きな押入れが備え付けられているため、室内はゆとりがあり整頓された感じを受ける。畳の部屋も2室用意している。利用者はテレビや使い慣れた家具など、思い思いの物を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面台は両端を自立型に、中央は介護型を配置する等それぞれの心身機能に応じ自立を支援できるよう工夫している		